

厚生労働科学研究費補助金 難治性疾患等政策研究事業（難治性疾患政策研究事業）
 プリオン病及び遅発性ウイルス感染症に関する調査研究班 分担研究報告書

亜急性硬化性全脳炎患者に関する疫学調査サーベイランス 2017

研究分担者：岡 明	東京大学大学院医学系研究科小児科学
研究分担者：細矢光亮	福島県立医科大学小児科学
研究分担者：鈴木保宏	大阪府立母子医療センター小児神経科
研究分担者：遠藤文香	岡山大学大学院医歯薬学総合研究科発達神経病態学
研究協力者：竹中 暁	東京大学大学院医学系研究科小児科学

研究要旨 5年ぶりに亜急性硬化性全脳炎の全国調査を実施した。全国の小児科小児神経科医療機関および神経内科医療機関の合計 1595 施設に一次調査票を送付し、これまでに 64%の施設から回答を得た。全国で 60 名の患者が診療を受けており、平均年齢は 31 歳で、前回調査よりもさらに年齢の上昇が認められた。前回調査以降に発症した患者数は 4 名との回答があり、依然として年間 1 名程度の発症があることが推測される。今後二次調査を通じて、より詳細な検討を行う予定である。

A. 研究目的

我が国は麻疹の流行に対して取り組みを進め、平成 19 年に国は麻疹排除計画を策定し、平成 21 年以降は麻疹の総数は激減した。現在では海外からの持ち込みによる麻疹であり、国内での水平感染による新規発症もほぼ抑制された状況となっている。しかし、麻疹は急性期の麻疹症状の後に持続感染をきたし、重篤な神経後遺症として慢性期に亜急性硬化性全脳炎 (SSPE) を発症する。SSPE の発症は、約 10 年間の潜伏期間の後であり、麻疹がほぼ撲滅された我が国では、今後も当分の間は SSPE の発症は続くものと想定される。

現在、我が国の麻疹撲滅の一環として麻疹については全数調査対象となり、発症数が把握されている。一方で、重症後遺症である SSPE については報告制度はなく、小児慢性特定疾患事業や特定疾患治療研究事業の対象でとなっている。しかし、小児慢性特定疾患事業では医療費の公費負担されている年齢では制度の利用がされていない場合もあり、必ずしも現状では実態を把握するには最適であるとは言えず、全国的なデータを得られる環境にはない。

本研究班では平成 19 年と平成 24 年に全国の神経内科および小児神経の医療機関を対象に、郵送による SSPE 患者の実態調査を実施し

た。これは厚生労働行政などに役立てる基礎資料として、SSPE 患者数の把握と、特に麻疹自体が減少している現状での新規発生数の把握と、患者の生活実態の調査を目的とした。

今回そのフォローアップとして平成 29 年度に全国調査を実施した。

B. 研究方法

サーベイランス調査として回答率を上げるために、患者数と新規発症患者を把握することを目的として一次調査を行った。

【調査概要】一次調査では、診療中の患者数、性別、年齢、前回調査を行った平成 24 年以降の発症者数を調査した。また、診療中の患者がいた場合については、二次調査の可否の回答を依頼した。

【調査対象】全国の小児科小児神経科医療機関および神経内科医療機関の合計 1595 施設に一次調査票を送付した。

（倫理面への配慮）

東京大学医学系研究科研究倫理委員会で承認を得て実施した。

C. 研究結果

【回答状況】平成 30 年 3 月 15 日現在、1016 施

設(63.7%)より回答があった。前回調査の回答率が 60.9%であり、ほぼ前回と同様の回答状況で、今後、未回答の施設には回答の再依頼を行う予定としている。

【患者数】現時点で診療中の患者総数は 60 名であった。なお、地域としては、北海道 8 名、東北地方 3 名、関東地方 11 名、中部地方 10 名、近畿地方 9 名、中国四国地方 4 名、九州・沖縄地方 15 名であった。

【患者平均年齢】これまでの患者年齢平均は 31 歳であった。

【新規発症例】2012 年以降の発症者数として報告されたのは 4 名であった。

D. 考察

平成 19 年度、24 年度に引き続いて、平成 29 年度に全国調査を行った。

前回と比較対照するために、基本的に前回と同様に小児科小児神経科医療機関および神経内科医療機関を対象として郵送による調査を行った。

まだ最終の集計ではなく途中経過であるが、すでに前回と同様の施設回答率には達しており、把握できた患者総数は 60 名であった。平成 24 年の調査の際の患者総数が 81 名であり、現時点の数字としては患者数は漸減している可能性があるが、最終的な集計を待つ必要がある。

なお、平均年齢は前回平成 24 年度調査が 25 歳で、今回が 31 歳であり、患者の年齢の上昇傾向は継続している。

注目すべきことは、平成 24 年度の調査以降の発症が 4 例報告されている。我が国では麻疹自体の感染数は激減しているが、依然として年間 1 例程度の SSPE の新規発症が継続している実態が明らかとなった。

今後、協力を得て二次調査を実施する予定であるが、①患者の重症度や現在の身体状況②医療的なニーズや課題③新規発症例の麻疹の罹患年などを調査する予定である。

E. 結論

まだ最終的な数は確定していないが、今回の全国調査で 60 名の患者が調査医療機関で診療を受けており、そのうち、最近 5 年間の新規発症例は 4 例であった。

詳細は二次調査などでさらに検討する必要があるが、依然として新規発症は継続していると考えられた。

F. 健康危険情報

なし

G. 研究発表

1. 論文発表

なし

2. 学会発表

なし

H. 知的財産権の出願・登録状況(予定を含む。)

1. 特許取得

なし

2. 実用新案登録

なし

3. その他

なし

